

令和7年 宮崎県人権啓発推進協議会委託（宮崎県人権啓発活動協働推進事業）

宮崎国際大学 公開講座

企画A：映画「プリズンサークル」上映会&トークセッション

企画B：音楽で捉える人権：痛みから癒しへ

実施要項

日時：2025年11月8日（土）（開場 11:30）

12:00-14:30 プリズンサークル上映会（日本語版、英語字幕版同時上映）

14:30-16:00 トークセッション

16:15-17:45 ライブミュージック

メイン会場：宮崎国際大学 国際交流センター

日本語字幕バリアフリーバージョン 139 分（会場：学食）

英語字幕バージョン 120 分（会場：2-307）

参加費：無料 定員：100名（映画上映は各100人）

企画A：映画「プリズンサークル」上映会とトークセッション

刑を終えて出所した人やその家族に対しては根強い偏見や差別意識がある。刑を終えて出所し社会復帰を目指す人たちは、本人に真摯な更生の意欲があっても、就職に際して差別されたり、住居等の確保ができなかったりするなど、現実はいきわめて厳しい状況にある。（宮崎県人権ホームページより）刑を終えて出所した人が、社会の一員として円滑な生活を営むためには、本人の強い更生意欲や努力とともに、家族・職場・地域社会など周囲の人々の理解と協力が欠かせない。この上映会とトークセッションでは、「Therapeutic Community (TC) 回復共同体」を取り入れた更生プログラムについて学び、受刑者のリカバリーと社会復帰への理解を深める。

映画：プリズンサークル

「島根あさひ社会復帰促進センター」は、官民協働の新しい刑務所。警備や職業訓練などを民間が担い、ドアの施錠や食事の搬送は自動化され、ICタグとCCTVカメラが受刑者を監視する。しかし、その真の新しさは、受刑者同士の対話をベースに犯罪の原因を探り、更生を促す「TC (Therapeutic Community=回復共同体)」というプログラムを日本で唯一導入している点にある。なぜ自分は今ここにいるのか、いかにして償うのか？ 彼らが向き合うのは、犯した罪だけではない。幼い頃に経験した貧困、いじめ、虐待、差別などの記憶。痛み、悲しみ、恥辱や怒りといった感情。そして、それらを表現する言葉を獲得していく…。

取材許可まで6年、撮影2年
初めて日本の刑務所にカメラを入れた
圧巻のドキュメンタリー

DIRECTED BY KAORI SAKAGAMI

PRISON プリズン・サークル CIRCLE

ぼくたちがここにいる
本当の理由

www.prison-circle.com



「島根あさひ社会復帰促進センター」は、官民協働の新しい刑務所。警備や職業訓練などを民間が担い、ドアの施錠や食事の搬送は自動化され、ICタグとCCTVカメラが受刑者を監視する。しかし、その真の新しいさは、受刑者同士の対話をベースに犯罪の原因を探り、更生を促す「TC (Therapeutic Community「回復共同体」)」というプログラムを日本で唯一導入している点にある。なぜ自分はここにいるのか、いかにして償うのか？ 彼らが向き合うのは、犯した罪だけではない。幼い頃に経験した貧困、いじめ、虐待、差別などの記憶。痛み、悲しみ、恥辱や怒りといった感情。そして、それらを表現する言葉を獲得していく……。

2025年11月8日(土)

宮崎県初上映!

12:00~14:30 上映会(開場11:30)

14:30~16:00 トークセッション

16:15~17:45 ミュージックライブ

会場: 宮崎国際大学 国際交流センター(学食)・2-307

参加費: 無料

定員: 100名

予約優先 QRコード、またはURLより、
Googleフォームにてお申し込みください。
<https://forms.gle/5Jc49kdJSBQxqMco9>

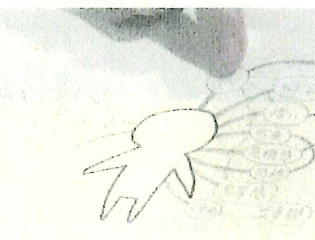


(C)2019 Kaori Sakagami

宮崎国際大学 889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405 <https://www.miu.ac.jp>

主催: 宮崎国際大学 地域連携センター

後援(予定): 宮崎市、宮崎県教育委員会、宮崎市教育委員会、宮崎私立中学高等学校協会、宮崎県社会福祉協議会、MRT宮崎放送、UMKテレビ宮崎、宮崎日日新聞、宮崎県公認心理師・臨床心理士会、宮崎精神保健福祉士協会、宮崎県社会福祉士会



プリズン・サークル

監督は、「ライフアーズ 終身刑を超えて」「トークバック 沈黙を破る女たち」など、米国の受刑者を取材し続けてきた坂上香。日本初となる刑務所内の長期撮影には、大きな壁が立ちはだかった。取材許可が降りるまでに要した時間は、実に6年。この堀の中のプログラムに2年間密着したカメラは、窃盗や詐欺、強盗殺人、傷害致死などで服役する4人の若者たちが、新たな価値観や生き方を身につけていく姿を克明に描きだしていく。



日本語字幕付バリアフリーバージョン139分(会場:国際交流センター)と英語字幕版120分(会場:2-307)を同時上映します。それぞれの会場にお越しください。英語字幕版は劇場公開時の日本語版とは一部編集が異なります。

TALK SESSION

刑期を終えた方、依存症、困難を抱える方々が、必要な支援や学びにアクセスできる機会が宮崎でも限られている現状。

この映画を通じて、「回復共同体」という新しい支援の形と理念を学んで、私たちの地域でも回復の機会を広げていきましょう!



ワタナベ シュキ
孤独問題研究所主宰
スワラジ代表

大学卒業後、ソーシャルベンチャーやNPO法人等に勤務するも、過重な働き方が原因で体調を崩す。療養のため宮崎に帰郷し、父の介護や自らの病の経験を通じてソーシャルワーカーを志す。リハビリ期間と百姓生活を経て、生活困窮者の支援事業に携わる。食が健康に寄与し、統合的なリカバリー支援に不可欠であることに気づく。現在は、食を通じたエンパワメントや「コミュニティ・アズ・セラピー」を実践するNY州のファウンテンハウスをモデルに、当事者主体のリカバリーセンターの設立に向け活動中。また、研究者、支援者、当事者を繋ぎながら、イノベティブなソーシャルワークの手法を学ぶ勉強会を開催。さらに、孤独や孤立をテーマとした対話の場「孤独・孤立の対話のひろば」をオンラインで企画・運営している。精神保健福祉士。



引土 絵未
(ひきつち えみ)
日本女子大学
准教授

19歳の時にアルコール依存症の父を自死で亡くしたことをきっかけに、精神科ソーシャルワーカーになり、主にアディクションからの回復支援に携わる。在職中にアメリカの治療共同体に感銘を受け、大学院で治療共同体について学ぶことを決意し、5年半勤務した精神科病院を退職。治療共同体Amityでのフィールドワークで生き直しの機会を得た経験から、日本での治療共同体実践による安全な対話の場の実現に向け、実践と研究に取り組んでいる。当事者・家族・治療共同体に関心のある人など様々なバックグラウンドの人たちが、安全な対話を通してさまざまなとらわれから解放されていくことを目指す「治療共同体ネットワーク」を主催。国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部外来研究員、日本学術振興会特別研究員RDPなどを経て現職。



平沼 哲
(ひらぬま さとし)
グレイス・ロード東京センター長
生活支援員
ピアカウンセラー

室蘭工業大学卒業、元花火師。国立病院機構久里浜医療センター「キャンブル等依存症回復施設職員研修プログラム」修了。グレイス・ロードとは、12ステッププログラムやエンパワメントグループ等の回復プログラムを提供するキャンブル依存症に特化した回復施設。回復プログラムでは、自助グループに準じた「言いつばなし、聞きつばなし」のミーティングや、内面まで掘り下げた仲間との対話を通して感情を引き出すことを目的とするエンパワメントグループを毎日実施。これにより、依存症に対する無力を認め、新しい生き方を獲得するとともに、互いに認め合い、自分や他者への気づきを深め、自己理解・他者理解・自己受容・感受性を促進して信頼関係を築くことを目的とする。

Human Rights Concert - Struggle, Healing and Redemption

人権コンサート - 苦悩、癒し、そして贖い（あがない）

EVENT SUMMARY

"Music has the power to heal, to connect, and to open the future." The documentary *Prison Circle* portrays individuals confronting their past while discovering recovery and renewal through dialogue and the strength of community. In much the same way, the great songs of blues, gospel, R&B, and pop carry stories of struggle, healing, connection, and the hope of redemption. This concert invites you to experience, through music, the meaning of recovery and human rights, and to share in the strength we need to move forward together.

「音楽は癒し、つながり、そして未来を拓く力。」

ドキュメンタリー映画『プリズン・サークル』は、人が過去と向き合いながら、対話と共同体の力によって回復と再生へと歩み出す姿を描いています。

その歩みと響き合うように、ブルースやゴスペル、R&B、そしてポップスの名曲には、試練を超えて癒され、つながり、赦しと希望へと向かう物語が刻まれています。

音楽を通して「回復と人権」の意味をともに感じ、未来を生きる力を分かち合いましょう。

“

"It may be that when we no longer know what to do we have come to our real work, and that when we no longer know which way to go we have begun our real journey."

Wendell Berry

「何をすべきか分からなくなったとき、
私たちはようやく“ほんとうの仕事”に出会うのかもしれない。
どこへ向かえばいいか分からなくなったとき、
そこから“ほんとうの旅”が始まるのかもしれない。」

ウェンデル・ベリー

ロイド・ウォーカー
ナレーター/ボーカル



Lloyd Walker
Narrator/Vocal

2025 November 8

16:15-17:45 PM

11月8日（土）参加費無料

宮崎国際大学 国際交流センター

イベント詳細及び
プリズン・サークル上映会の
お申し込みは↓こちらから！



Musicians



TETSUYA SUWAZONO 訪頭 哲哉(すわその てつや)

大学在学中にジャズ研究部に所属し、ジャズベースを始める。
その後ライブハウスなどで演奏を重ね、水谷浩章氏、松岡誠一氏など様々なミュージシャンとの交流を深め研鑽を積む。現在もジャズオーケストラでの活動や県内の様々なバンドに参加しながら、自身のアレンジバンドによる演奏活動も行っている。



TOMOHIRO INOUE 井上 哲宏(いのうえ ともひろ)

1983年 宮崎県宮崎市出身
30歳までドラマー、ドラム講師として県内外の様々なアーティストのサポート演奏活動を行う。
ドラムコンテストや音楽・バンドコンテストも多数受賞。
2012年にドラゴンヘッド音楽スタジオ & ドラムスクール(現ドラゴンヘッド)をオープンし、楽器・音響レンタルなどイベントやコンサートの裏方として宮崎の音楽文化に携わる。



SATSUKI IMAMURA 今村 さつき(いまむら さつき)

4歳よりピアノを始め、植木純氏等に師事。東京音楽大ピアノ科を卒業。在学中よりアレンジやJAZZを学びながら、プレイヤーとして東京で演奏活動をスタート。宮崎に帰郷してから県内外での演奏活動や国内外でのミュージシャンのサポートを行っている。クラシックは元より、ポップス、ジャズ、ボサノバ、シャンソンなど多彩なジャンルの中で活躍。サポートとして彼女を指名するミュージシャンも多く、東京で活躍中のシンガーソングライターRay Yamadaの国内ツアー、台湾ツアーへも参加している。宮崎県内ではチェロとのユニット「nagiSatsuki」としてCDを2枚リリース。演奏活動と同時に、クラシックやポピュラーピアノ、弾き語りの指導、まほろば福祉会で音楽の講師としての指導にも力を入れている。音楽団体「The Gift of Music」代表



YUSUKE YANAGIDA 柳田 祐輔(やなぎだ ゆうすけ)

1987年宮崎県三股町出身。中学時代にバスバンド部でチューバを経験した後、ギターに転向。
2006年、音楽活動のために上京。洗足学園音楽大学に入学し、ギターを有田純弘氏、梶原順氏に師事。音楽理論や作曲等についても学ぶ。在学しながら自己のバンドや、ホテルやカフェ等でのBGM演奏、新人歌手のサポート等様々な演奏活動を行う。2010年、洗足学園音楽大学ジャズコースを首席で卒業。東京神奈川を中心にLIVE、レコーディングのサポートや作曲等で精力的に活動する。2013年陸上自衛隊に入隊。2年9ヶ月の期間、健康駐屯地にて自衛官として勤務をした後退職。2016年、宮崎県を拠点に九州各地にて音楽活動を再開する。フラメンコやブラジリアンミュージック等のワールドミュージックや、ジャズ、ポップス等様々なスタイルでの演奏や、劇団、来宮するミュージシャンとの共演等、積極的に活動する。宮崎学園高等学校にて非常勤講師を勤める。

演奏曲

Act I - Struggle / 苦悩

The Thrill Is Gone - B.B. King
(スリル・イズ・ゴーン / B.B. キング)
失われた喜びと喪失感を深く歌い上げるブルースの名曲。

Bridge Over Troubled Water - Simon & Garfunkel
明日に架ける橋 / サイモン & ガーファンケル
苦しみ友に寄り添う慈愛のバラード。

A Change Is Gonna Come - Sam Cooke
(チェンジ・イズ・ゴナ・カム / サム・クック)
希望と社会変革への切なる祈りを込めたソウルの名曲。

Act II - Healing / 癒し

Lean on Me - Bill Withers
(リーン・オン・ミー / ビル・ウィザース)
支え合うことの温かさを伝えるソウルの定番。

You've Got a Friend - Carole King / James Taylor
(君の友だち / キャロル・キング / ジェイムス・テイラー)
どんな時も「友だちはここにいる」と伝える優しい歌。

Stand by Me - Ben E. King
(スタンド・バイ・ミー / ベン・E・キング)
不安な時にも寄り添う愛と友情のメッセージ。

Let It Be - The Beatles
(レット・イット・ビー / ザ・ビートルズ)
受け入れること、委ねることの強さを語る名曲。

I Wish I Knew How It Would Feel to Be Free - Nina Simone
(アイ・ウィッシュ・アイ・ニュー・ハウ・イット・フール・トゥー・ビー・フリー / ニーナ・シモン)
自由と癒しへの願いを込めたジャズ・スピリチュアル。

Act III - Redemption / 救済

He Ain't Heavy, He's My Brother - The Hollies
(ヒー・エイント・ヘヴィ、ヒーズ・マイ・ブラザー / ザ・ホルリーズ)
重荷を共に背負う兄弟愛の象徴。

Here Comes the Sun - The Beatles
(ヒア・カムズ・ザ・サン / ザ・ビートルズ)
長い冬の後に訪れる希望と再生の歌。

Feeling Good - Nina Simone
(フィーリング・グッド / ニーナ・シモン)
新しい朝を迎える喜びを高らかに歌う。

I Will Survive - Gloria Gaynor
(アイ・ウィル・サヴァイヴ / グロリア・ゲイナー)
逆境を越え、自分を取り戻す力強いアンセム。

Don't Stop Believin' - Journey
(ドント・ストップ・ビーリーヴン / ジャーニー)
信じ続けることの勇気を翼を閉じる。希望のロック。

